

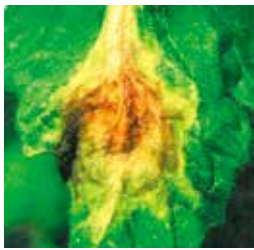


梅雨時期は病気にご用心

6月は春に種まきを行った作物を管理する時期ですが、雨が多く日照時間が短くなります。梅雨対策をしっかり行い、作物の収量を確保できるようにしましょう。また、日差しが強くなり、雑草も茂る季節です。熱中症対策も忘れずにしましょう。

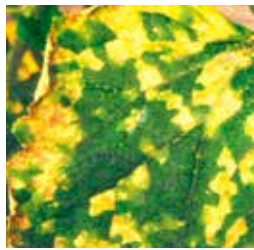
この病気に注意！

疫病



葉に暗黒褐色の大型病斑ができ、乾燥すると茶褐色になる。茎や果実は軟化腐敗し、暗黒褐色で凹んだ病斑になる。

べと病



葉の表面に淡黄～淡褐色の病斑が葉脈で区切られてモザイク状に生じる。葉裏には、紫黒色のカビがピロード状に密生する。

うどん粉病



初期は下方の葉の表面に粉がついたように白いカビが丸くパッチ状に生じ、次第に黄化や枯死が現れる。

青枯病



初期は株先端の茎化が日中しおれ、数日後には株全体が萎凋して青枯症状になる。

対策



通気性や水はけ、日当たりを良くするようにしましょう。水はけの悪い畑では畝を高くしたり不要な葉を取り除くのが効果的です。病気になってしまったものは、取り除ける範囲で取り除き、病気の蔓延を防ぎましょう。

熱中症にも注意！6月にも熱中症で死亡事故が…

気象庁が発表した3カ月予報（4月23日発表）では平均気温は例年より高い見込みとされています。熱中症による死亡事故は、8月が最も多いですが、6月も1年で3番目に多くなっています。農作業をするときは次の項目に気を付けましょう。

- ①日中の気温の高い時間帯は避けて作業する
- ②こまめな休憩、水分補給を行う
- ③熱中症予防グッズを活用する
- ④単独作業を避ける
- ⑤高温多湿の環境を避ける

雑草もぐんぐん育つ季節です

6月は雑草の成長も盛んです。雑草が増えることで風通しが悪くなり、病原菌が増えてしまう可能性があります。気温が高くなってからの季節に雑草の処理をするのは熱中症のリスクもあるので、草が小さいうちに刈り取るようにしましょう。

野菜の栽培に関する相談は
LINEでもできます

